

NEWS LETTER

No.23
2025.1

第11回市民公開講座 アフリカ音楽よもやま話

サカキマンゴー（演奏家）
Sakaki Mango

JICA 市民公開講座
アフリカ音楽よもやま話



講師 **サカキマンゴー 氏**

アフリカの楽器・親指ピアノを南九州の県立高校・JICAの派遣事業、大分県立大学で学ぶ人が聴き得る。アフリカ各地の音楽旅行を積み重ね、伝統音楽を独自の感覚で現代の世界に伝えている。その活動はNHKやBS1やBS2などで紹介された。過去の活動はJICAやJICAの海外拠点でも紹介された。過去の活動はJICAやJICAの海外拠点でも紹介された。

参加料
無料
ご予約不要
会場見学券

1月20日(土) 15:30~17:00
会場 鹿児島市国際交流センター1F 多目的ホール
鹿児島市旭町 19-18
TEL. (099)226-5931

連絡先 鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会
鹿児島市旭町 19-18 鹿児島市国際交流センター内
（受付時間 12:00~18:00）
TEL. 099-226-5931

主催 JICA 九州、鹿児島大学、鹿児島県、鹿児島市

第11回市民公開講座は、2024年1月20日に鹿児島市国際交流センターで、サカキマンゴー氏により「アフリカ音楽よもやま話」を講演して頂きました。講演には、実際の親指ピアノも持参して頂き、演奏や踊りを交えながら、楽しく興味深いお話を紹介して頂きました。



講演でご紹介頂いた印象深いお話に関し、寄稿文を頂きましたので、以下に紹介します。

十円玉と親指ピアノ

－トンガ人のカンコベラ（ザンビア）

サカキマンゴー

私はアフリカ生まれの楽器・親指ピアノの演奏家です。この楽器を使った新しい音楽表現を模索する毎日ですが、アフリカ各地に点在する多種多様な親指ピアノを探し、演奏方法を習得する旅も続けてきました。その中で出会ったザンビアの親指ピアノの話をします。

ザンビア南部に住むトンガ人（トンガ王国の人ではなく民族名）の親指ピアノ、カンコベラは他の多くの親指ピアノと同じく、弾く人がどんどん少なくなっています。大音量化して宗教儀礼やコンサートなどにも用いられる親指ピアノもありますが、多くは音量が小さく、自分ひとりを楽しませるためにポロポロと即興演奏されるのが主で、格好の暇つぶしになるラジオが普及したことなどにより、衰退の一途をたどっているのが実情です。

カンコベラを探して現地を訪れた私は、トンガ人の伝統音楽に特化した音楽祭を毎年主催しているラジオ局に協力を求めました。演奏できる人の心当たりはあるけれどみんな電話を持っていないとのことで、ラジオDJが「カンコベラ弾ける人集合！」と放送して、ふたりの演奏家を呼び出してくれたのでした。アンドリュー・ムニョンベさんとアーロン・ンチェンジェさん、ふたりが一台ずつ持ってきてくれたカンコベラはどちらも、手のひらほどの大きさの板に9本のキーが取り付けられたシンプルな作りの親指ピアノでした。それを、本体よりも少し口径の小さなひょうたんや空き缶に当てて演奏し音を共鳴させるのです。音孔には蜘蛛の卵膜が貼られていて、その振動によりブーンブーンと小気味よいサワリを出しています。キーを親指で弾きながら、本体を共鳴器に接触させたり絶妙に離すことを繰り返しているのはワウワウ効果をつけるためです。

アンドリューさんは37歳のときに夢のお告げがあってカンコベラを弾き始めたそうです。夢のお告

げで何かを始めるなんてなかなか考えづらい話ですが、トンガ人の社会ではよくあることらしく、「チズィモ」と言うのだとか。全てのものに魂が宿っていると考えるアニミズム信仰もあって、水辺の岩や木々に対して演奏することもあるようです。

ザンビアのトンガ人は大河・ザンベジ川の北岸に沿った肥沃な地域にかつて住んでいましたが、1955年に下流でカリバ・ダム建設が始まると、5万人ともいわれる多くの人々が補償なしで強制的に移住させられました。ダムが完成し、彼らの土地だったところに出現したのは巨大な湖。信仰や演奏の対象である岩や木々ごと彼らの村は水の底に沈んでしまったのです。移住先は乾ききった土地で作物はなかなか育たず都会に出稼ぎに出なければ生活できない人が続出しました。ギターなどを使ったポップスに触れる機会も増える中、地味な親指ピアノは忘れられていったのです。アーロンさんは「若い人たちはギターに夢中だからね。俺たちが死んだらカンコベラも一緒に死んじゃうよ」と言っています。ふたりは「大勢追い出されたね」「あれは戦争のようなものだった」と当時を振り返り、アンドリューさんはカンコベラを弾きながら「銃は怖い」という自作の歌を歌ってくれました。

ある日、男がうちにやってきて言った
「お前はここから出ていかなければならない」
私は「ここから出て行きたくない」と言った
男は私に銃を向けてきた
移住はしたくない、けれど銃は怖い

発電のために作られたカリバ・ダムの電力の一部は、世界有数の銅の産出国だったザンビアではその精錬のためにも使われました。ザンビア産の銅は当時の日本も大量に輸入しています。銅を主原料としている10円玉を見るとときどき、この歌を思い出すのです。「遠く離れたアフリカの片隅で起きた悲しい話」のようですが私たちの暮らしとも関わりがないということはできません。

2023年度国際協力パネル展

主催：JICAデスク鹿児島

共催：青年海外協力隊鹿児島県OB会・鹿児島県JICA派遣専門家連絡会

2024年1月27日（土）～2月12日（月）イオンモール鹿児島で国際協力パネル展を開催しました。

鹿児島県出身のJICA海外協力隊やシニア海外ボランティア、そしてJICAプロジェクトの専門家として派遣された方の活動や、国の様子を紹介する写真パネルを展示しました。

1965年に初めて青年海外協力隊員がラオスへ派遣されてから、これまでに全国で約5万人以上の隊員が派遣されてきました。鹿児島県からも1000名以上が飛び立っており、2024年9月現在で、20名の鹿児島出身隊員が活動しています。

JICAが実施している国際協力について、市民の方々が興味を持ちやすい要素を取り入れながら紹介することにより、世界で起きている様々な問題や開発途上国の現状を周知し、理解を深める必要性を感じています。

今後も鹿児島県民の方々へ、鹿児島県における国際協力の歩みを伝え、より世界を身近なものと感じて頂くきっかけとなる取り組みを続けていきます。
（JICAデスク鹿児島 国際協力推進員 仮屋慶一）



2023年度「連絡会」定期総会報告

鹿児島県JICA派遣専門家連絡会

2023年度の鹿児島県JICA派遣専門家連絡会の総会が、2024年1月20日（土）に鹿児島市国際交流センター多目的ホールにて、久しぶりに対面方式で開催されました。稲見廣政会長の挨拶に続き、青年海外協力隊鹿児島県OB会の桑山昌洋顧問から来賓挨拶を頂きました。

続いて、1）2022年度会計報告、2）2023年度活動報告として、（1）JICAボランティア・セミナーはコロナ禍のため協力隊の派遣者がほとんどいないため実施できなかったこと、（2）「国際協

力パネル展」の開催（市民対象、1月27日（土）～2月12日（月）、イオンモール鹿児島）、（3）総会の開催（2024年1月20日、会場で対面方式）、（4）市民公開講座の開催（総会と同日、同会場、講師：サカキマンゴー氏／演奏家）、（5）NEWS LETTER No.22の発行（150部、2024年1月）、3）2023年度会計中間報告が報告されました。

議事としては、1）令和6～7年度の役員の交代が審議され、新会長として山岡耕作幹事、新幹事として帖佐徹会員、幹事の継続として嶽崎俊郎幹事が

選出された。次いで、2024年度活動計画として、
(1) JICAボランティア・セミナー、(2024年10
～ 11月予定、鹿児島大学郡元キャンパス)、(2)「国
際協力パネル展」(市民対象、イオンモール鹿児島)、
(3) 会報誌「NEWS LETTER」第23号の発行(150
部印刷、2024年11～12月)、(4) 総会(2025
年1月予定)、(5) 市民公開講座(2025年1月予
定)、2) 活動報告に準じた2024年度予算が承認
されました。

総会に続いて、第11回目となる市民公開講座が
行われました。講師は、親指ピアノの国際的演奏家
であるサカキマンゴー氏で、「アフリカ音楽よもや
ま話」の演題で、演奏や踊りも交えながら楽しく興
味深い内容が紹介されました。参加者数は28名で、
専門家OBの他、中学生、大学生、一般、協力隊な
ど幅広い層から参加して頂き、活発な質疑と丁寧な
応答が行われました。

(総会担当：山岡耕作、嶽崎俊郎)



編集 後記

本号では、アフリカ生まれの楽器・親指ピアノをもとに、アフリカ地域特有の音楽や文化を市民公開講座で
紹介して頂いた鹿児島在住の音楽家であるサカキマンゴー氏に、この楽器を使った新しい音楽表現を模索し
ながら、アフリカ各地に点在する多種多様な親指ピアノを探し、演奏方法を習得する旅のなかで感じられた
ことを寄稿文としてまとめて頂きました。お忙しい中、鹿児島で演奏をまじえながら楽しく興味深い講演を
して頂いた上に寄稿文まで頂き、深く感謝申し上げます。今回も、毎年開催しているパネル展と総会の報告
も合わせ、コンパクトなNEWS LETTERとして発行しています。寄稿のご希望がありましたら、お気軽に
お申し出下さい。

編集：事務局 嶽崎

鹿児島県JICA派遣専門家連絡会会報 第23号

発行 2025年1月

発行者 鹿児島県JICA派遣専門家連絡会 会長 山岡耕作

鹿児島県JICA派遣専門家連絡会事務局

事務局連絡先

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1 鹿児島大学病院地域医療支援センター内

電話：099-275-6526 FAX：099-275-6528

E-mail：takezaki@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp 担当：嶽崎俊郎（たけざきとしろう）